

令和5年第12回 幸手市教育委員会定例会会議録						
招 集 期 日		令和5年12月12日（火）午前9時30分				
開 会 場 所		幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A				
開会の日時・宣告者		令和5年12月12日（火）午前9時30分			山 西 実	
閉会の日時・宣告者		令和5年12月12日（火）午前11時57分			山 西 実	
出席 状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	教 育 長	山 西 実	出 席	教 育 委 員	高 島 勝 也	出 席
	職務代理者	会 田 研 司	出 席	教 育 委 員	藤 沼 寛 次	出 席
	教 育 委 員	岩 崎 万 紀 子	出 席	教 育 委 員	古 沢 万 友 実	出 席
傍聴人：0人				書 記：関 口 智 章・河 口 奈 緒		
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	小 林 秀 樹				
	総 務 課 長	服 部 道 春				
	学校教育課長	堀 越 成 夫				
	社会教育課長	仙 田 茂 雄				

会 議 事 件 名	顛 末
開 会 午前 9 時 30 分	教育長 開会を宣する。
日程第 1 前回会議録の承認	教育長 令和 5 年第 11 回教育委員会定例会及び令和 5 年度第 2 回総合教育会議の内容について質問を求める。 《質疑》 質疑なし。 《承認》 全員異議なく承認。
日程第 2 協議事項 不登校対策の推進について	学校教育課長 議案書により説明する。 《質疑》 藤沼委員 まず、資料の 5 ページを見ると十分組織的に整理・コントロールされていると感じる。 そこで、前の 4 ページでは無気力・不安が小学校で 24 名、中学校で 45 名という令和 4 年度の数字が上がっているのか、下がっているのか。過去の履歴が載っていないので、先ほどの 5 ページの制度が上手く効果を発揮しているのか不明なので、これだけでは判断がつかない。 次に、いじめの人数は少ないが、不登校にフォーカスすると SNS が新たな問題がポイントになると見ている。 話は少し戻るが、無気力・不安が多いということを見たときに、子どもたちの目標はどうなのかと思う。家庭、あるいは地域を含め、1 人ひとりの人生の目標についてどう相談を聴いているのかというのが一つの大きなポイントになる。 別の資料では、小学 6 年生から中学 1 年生ぐらいが重要であるとされており、また、7 歳ぐらいも重要なポイントになる。幸手市の制度・ルールはしっかりできているので、これを磨いていくための組織的な共有を上げていく。

	併せて子どもたちの心の共有、これができるばもっと効果が出てくると思う。 最後に、この数字の中には発達障害の傾向のある子もいると思うので、特別支援学級や医療機関も手を添えながらしっかりフォローしてほしい。 学校教育課長 人数の傾向については、数字を追いかけていないのははっきりとは言えないが、少しずつ増えているように感じている。無気力・不安の子どもたちに寄り添うために、幼保小で担当の先生の連携会議を行い、子どもたちの状況の把握、情報交換をしている。 また、幼稚園や保育所の園児には、近くの小学校に来てもらって小学1年生や2年生が諸活動を案内しているといった交流をしながら、先生方は子どもたちに寄り添うということをしている。そのためには管理職がリーダーシップを発揮して幼保と連携を図っていくことで、子どもたちに寄り添った指導が上手にできていくと考えている。 発達障害の子のフォローについては、就学前の子どもたちは、こども支援課や社会福祉課に相談しているケースもあるので、そういった相談を学校に上がるときに引き継いでいかなければならない。まずは学校教育課とそれらの関係課との連携を進めながら、そういった子どもたちへの理解を深めると同時に、学校の先生方とも連携を図ってフォローしていく状況になっている。 藤沼委員 全て数字で追うと行動に影響してしまう、それはあまりよくない。例えば人生100年だとすればそのうちの6年や3年でしかない。一つの人生経験と考え、最悪のパターンにならなければ、多様性の中で少し遠回りしたかなというところ。まっすぐな道を突っ走るより、一休みしてもいいじゃないかと。大人が寄り添うことが必要だと考えている。 教育長 不登校が悪という訳でなく、自立のための一つの期間と文部科学省はとらえている。 岩崎委員 3ページの不登校の現状で、令和2年度・3年度あたり
--	---

	で増加している。新型コロナウイルス感染症の感染不安による欠席は不登校に含まれていないはずであり、どう考えているのか。 心すこやか支援室 13 名の受入れは、部屋のサイズ感は厳しくないか。親の送迎やお昼ご飯はどうなっているか。 7 月のさいたま市での研修会で、熊谷市の方と同じ班になった。熊谷市には相談委が 3～4 人いて、やりがいを感じるが、家庭に問題があり不登校になっている。学校の先生ではいろいろな事情に対応するのは難しく、親の協力ができない子どもたちをどう支援するか、ある程度は専門家が必要と聞いた。不登校だからダメということではないと伝え、信頼できる人や相談できる人、どこかに繋げてあげてほしい。多様性の時代に学校に行かない選択肢があってもいいし、学校に行っても漠然とした不安を抱える子もいるだろう。自分がやりたいと思うことにつながるよう、学校は行きたくなる場所であってほしい。 学校教育課長 令和 2 年度・3 年度あたりの増加については、新型コロナウイルス感染症が流行した時、学校に行かなくてもいいのではなかという風潮があると感じた。 心すこやか支援室は、小学生は親の送迎、中学生は自転車で来ている。お弁当は持参してもらっている。スペースはまだ若干の余裕があり、プレイルームもある。学校の中にもそのような部屋があり、学校にいけない子はそちらに行く場合もある。 高島委員 制度をどう運用するかは現場次第のところもある。あまり数字にとらわれないでほしい。不登校の数だけ事情があり、その分対応が変わってくる。本人の無気力・不安が、本人の問題だけなのか、あくまでも学校の報告であり疑問もある。 文部科学省が令和 3 年 10 月に公表した子どもたちのアンケートは複数回答だった。そのアンケートでは、本音は学校を通さずアンケート業者に行く。実際、学校に行かなくなったきっかけは、小学校では 76.9%、中学校では 79.4%が学校生活に原因があるという結果が出ている。友達のこと、授業や先生のことなどが挙げられていた。 無気力・不安だけでなく、本人と保護者の認識が異なる
--	--

場合もある。子どもたちに寄り添うと言っても難しい問題もあり、子どもたちの聞き取りからしっかり原因をつかむ。

教育相談では課題が表に出ないこともある。機能しているか、信頼されているか、子どもたちに合っているか、言葉だけにならないよう反省しながら、先生たちがお互いに指導力改善を図ってほしい。特効薬はないが、一生懸命やることが大切。

古沢委員

いじめ・不登校に対し手厚い選択肢があって、安心につながると思う。

フリースクールという選択肢は、経済格差に左右されず支援を受けられる体制にあるのか。

学びの場も変化の時代にある。学校に行かない選択をしている子を知っているが、特に障害はなく、とても明るい子だが、いざ学校に行くと登校拒否というイメージがついて教室に入りづらいと聞いている。言葉のイメージとして、不登校に対して肯定的な言葉に変わるだけでも、不登校に悩む子どもたちの自信につながるようなこともあると感じる。学校に行かない状況が長く続くと、保護者にもプレッシャーに感じることもあるのではないか。その不安を子どもたちが感じ取ってしまうことがないよう、周りの大人たちが、学校に行かない選択もいいんだと理解して温かく見守ってほしい。

例えば広報で不登校の違う呼び方を公募するなどして、明るいイメージが社会に広がってほしいと思う。

教育長

以前は登校拒否という言葉があったが、登校したくてもできない子たちがいたので、不登校という言葉ができたという経緯があった。

会田職務代理者

いろいろな考え方があっていいし、数字だけを追うつもりもない。

文部科学省が出している調査結果では、子どもの数が減っているのに不登校の数は増えている。

大学では、学校には行った方がいいという立場で、対策としてどういう授業をするかという論文を課題にしていることもある。

	不登校が過去最多を上回る状況にあって、先生は放置もできないということで何らかのコミュニケーションを図らなければならない。不登校の生徒に対し、通常の授業が終わった後、家庭訪問の実施や、相談の場を設けなければならないなど、先生も大変だと思う。 一方で、学校に来たり来なかったりという子は、全てという訳ではないが、学力が上がりにくく、そういった子も大変だと思う。 やはり、不登校の子や保護者が相談できる場をしっかりと作らなければならない。 スクールカウンセラーが各校1名配置されているとは言いが、不登校の数が県平均や全国平均を超えているのであれば、スクールカウンセラーが強化配置されてもいいのではないかと感じる。 スクールカウンセラーをどう配置していくか。本腰を入れて市独自で常駐させる、あるいは心すこやか支援室に配置するという考えはいかがか。 学校教育課長 スクールカウンセラーは、中学校で週1回、強化配置されている学校もある。通常は10日に1回程度である。 高島委員 タブレットを不登校の子のケアにどんどん使うべきである。これにより個別指導がより生きる。ICTを使って積極的にやってほしい。プリントを基に、タブレットを使って個別に対応するなど、学校でやっていることを少しでも補えるように。とは言え、教員の負担は避けるようにしてほしいが。 会田職務代理者 小学生のうちに不登校になると、中学生になってからの解消は厳しい。学力も同じことが言える。令和元年度は小学生が4人だったが、30人にもなると対応が難しくなってくる。不登校の原因はつかめているのか。 高島委員 小学校3学年から4学年で行けなくなる子が多く、中学校では中1ギャップと言われている。 教育長 まずは小学校3学年から4学年の不登校を作らないようにしたい。思春期の入り口で、学習の進度も大きな要因
--	---

日程第 3 議 事 議案第 24 号 学校給食費の 1 人当 たりの負担額の改定 について	である。 藤沼委員 昔も不登校の子はいた。入院など長期欠席すると学力が追い付かず、登校できなくなってしまう。特に小学校 4 学年から 5 学年は学習内容が難しくなるところで、置いてきぼりになってしまう。 岩崎委員 不登校の別名について。先ほど申し上げた 7 月の研修で挙がっていた。「不登校」ではなく「学びの多様化」というような意見があった。 教育長 新型コロナウイルス感染症が流行した当時、長期休業が続いたり、無理してまで学校に行かなくてもという雰囲気を作られた。これも新型コロナウイルス感染症の副作用と言える。 幸手市では夏休みを短くしたところ、親が 2 学期に向けた準備が間に合わず休ませたということがあり、全員が揃うまで 1 週間かかったという学校があった。家庭的背景は様々である。 高島委員 タブレットでのディスカッションもグループでは難しいが、不登校は 1 対 1 だから、タブレットを活用すれば対面でもできると思う。 しかしながら、社会経済的な背景も大きいから、パーセンテージが全国と比べて高い低いということを指標としては見ても、そこを突き詰めようとすると苦しくなってしまうのでバランスを見るようお願いする。 総務課長 議案書により説明する。 《質疑》 岩崎委員 物価高騰に関しては、家庭でも実感しているので仕方ないと思う。 そこで 2 点伺う。1 点目は、牛乳は必ずメニューに入れ
--	---

	なければならないのか。これを見直すのも 1 つではないか。 2 点目は、幸手市は自校式であるが、自校式とセンター方式で給食費に違いはあるのか。 総務課長 1 点目。牛乳に代わるものがなかなかない。特にカルシウムが優れている。 2 点目。自校式とセンター方式では、一般的にセンター方式が安くなる傾向にある。 高島委員 文部科学省が、給食には牛乳を含めるよう法的に定めていると記憶している。 市長公約の関係で伺いたいですが、給食費の無償化はどうなるのか。 教育部長 先日の議会でも一般質問をいただき、予算措置などの課題を整理して実現する旨の答弁を行った。公約でも時期は明言していない。一方で、本日の追加議案である補正予算の中で、値上げ相当額を補助し、来年度の保護者負担が増えないよう配慮している。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。
議案第 25 号 幸手市教育委員会会議規則の一部を改正する規則	総務課長 議案書により説明する。 《質疑》 質疑なし。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。
議案第 26 号 令和 5 年度幸手市一般会計補正予算(第 7 号)教育費の要求について	教育部長 議案書により説明する。 《質疑》 質疑なし。 《採決》 全員異議なく原案どおり議決。
日程第 4 行政報告	

1 教育長報告	教育長 1 学校再編の方向性について 2 各種教育長会議等 3 第4回幸手市議会関係 4 講演等 について資料により説明する。 教育部長 令和5年第4回幸手市議会定例会一般質問（教育委員会部分） について資料により説明する。
2 事務局からの 主要な報告	学校教育課長 1 令和5年度 表彰関係 2 令和6年度埼玉県公立小・中学校管理職選考結果について 3 幸手市立小・中学校 学校評価について 4 令和6年度学力・学習状況調査等の実施について 5 令和6年度当初教職員人事事務の予定 6 今後の行事予定 7 令和5年度 卒業証書授与式の日程 社会教育課長 1 幸手市文化祭実行委員会 2 非行防止パトロール（幸手市青少年育成推進員） 3 ランチタイムコンサート 4 令和6年幸手市二十歳を祝う会 社会教育課長（公民館） 1 10月の利用状況 2 事業報告 3 今後の事業予定 社会教育課長（郷土資料館） 1 報告事項 2 今後の事業予定 社会教育課長（図書館） 1 報告事項 2 利用状況 3 今後の事業予定

	4 予約の多い図書（上位5冊） 社会教育課長（体育施設） 1 利用状況 2 自主事業 3 今後の自主事業 について資料により説明する。 《質疑》 藤沼委員 2点ある。1点目は、管理職選考結果について。6名中2名が合格というのは妥当な人数なのか。 2点目は文化祭参加者が少ないことについて。伝統的な地域活動ではあるが、未来型の文化活動の構築が必要な時期にあるのではないか。 学校教育課長 校長選考の倍率は3.2倍なので、妥当だと考えている。 社会教育課長 本日午後、文化祭の反省会があるので、今後の検討課題として提案してみたい。 岩崎委員 4点ある。1点目は模擬店について。土曜日だけだったようだ。少し飲食できるような市内の店舗に宣伝も兼ねて出店してもらおうと盛り上がるのではないか。 2点目。発表団体を紹介するスクリーンがあったが、その団体の何曲目なのかというところまで紹介あるといい。 3点目。来場者が少ないと感じた。自分の関係団体を見て帰ってしまう。高齢者は足の問題もあるので、日曜日もあるといい。 4点目は感想だが、昔の写真や体験のブースなど、ハイツも含めて良かったと感じた。 社会教育課長 土曜日は、おこわやパンの販売があった。日曜日はウェルス幸手の健康まつりで物販が行われていた。そちらとの関係も含め検討していく。 スクリーンも岩崎委員の御提案について検討していく。 また、足の問題についても、循環バスをアピールするとともに、日曜日もあるバスを出せるか検討していく。
--	---

日程第 5 その他 1 次回以降の会議 日程 2 次回の協議事項 3 その他 閉 会 午前 11 時 57 分	岩崎委員 出場団体の案内チラシもとてもよかった。 各委員の意見を調整した結果、1月の会議については、次のとおり決定する。 (1) 令和5年度第3回総合教育会議 日時 令和6年1月16日（火） 午前9時 （後日、午後1時に変更） 会場 幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A (2) 令和6年第1回教育委員会定例会 日時 令和6年1月16日（火） 午前10時15分 （後日、午後2時15分に変更） 会場 幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A 総務課長 総合教育会議開催のため、割愛とする。 なし 教育長 閉会を宣す。
---	---

ほ か 特 に 重 要 と 認 め る 事 項	な し
	上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和6年1月16日 教 育 長 山 西 実 署名 署 名 委 員 会 田 研 司